

## 弘前藩「御絵図目録」の発見とその意義

本 田 伸

絵図はさまざまな要求に基づいて作成されるが、その利用と保管の仕方について、一定のパターンというものはない。絵図が後世に「残される」か「残されない」かは全く当事者の意思しだいであり、個々の意識差が如実に現れる事象だと言える。

近世において、公権力の必要から作成された絵図は、この「残される」べき絵図と位置づけられよう。その例として、幕府の発令に係る国絵図、藩相互の交渉の中で策定される境界絵図、軍事防衛上の資料たる陣屋・砲台絵図などが挙げられるが、これらは、当時においても高度な行政資料として活用され、幕政・藩政上の記録にもしばしば登場する。

ただし弘前藩の場合、絵図の制作年代や制作方法に触れた一次史料に乏しく、その成立過程や残存状況に関する研究は深められてこなかった。一九五〇年代後半、羽賀与七郎氏は、「弘前藩庁日記」（御国日記）を軸として、弘前藩の元禄国絵図・享保日本図・天保国絵図について史料紹介と考察を行ったが、その後、氏の関心が専ら測量術史の解明に移っていったこともあり、絵図が藩政の中で果たした役割の分析にまで踏み込まなかった点が惜しまれる。絵図の残存状況や数量についての情報が不足していたからだろう。しかし、近年、青森県立郷土館で特別展『描か

れた青森』が開催され、同館歴史分野による近世海岸絵図調査が始まるなど（平成十年度からの五カ年計画）、絵図への関心が高まり、基礎データの集積が進みつつある。他にも青森県史編さん室による一連の絵図調査や、国絵図研究会による国絵図所在調査なども行われている。画面に描かれた事象を正確に読みとることは絵図研究の最も有効な方法には違いないが、現在はこれに加えて、より多くの関係資料を収集し、制作目的やその後の利用状況を明らかにすることが、学際的な課題となつてきている。

本稿で採り上げる「御絵図目録」（以下「目録」と略記する）は、これまで知られていなかった新史料である。国元で絵図改めを行った際に作成されたものと考えられ、弘前藩の地理行政・絵図管理の一端を知る上で、多くの情報を含んでいる。この「目録」に記載された絵図の多くは津軽家文書（弘前市立図書館及び国文学研究資料館史料館蔵）中に現存し、絵図の表題（史料名）などに若干の異同はあるものの、それぞれの館蔵品目録と照合・比定することが可能である。

表紙には「元禄十六癸未年三月七日改之」「宝永七庚寅年十月廿八日」の書き入れがある。元禄九年（一六九六）十一月、幕府は正保度以来約

五十年ぶりに国絵図の改訂を発令し（元禄国絵図。以下「元禄図」と略記する）、弘前藩は元禄十四年十月に自領分を提出しているが、その後、同十六年（一七〇三）から宝永七年（一七一〇）まで、わずか七年半の間に二度の絵図改めが行われたことが、これでわかる。年記の下に記された五名については、

石田丈右衛門

治右衛門。四〇〇石、寄合役筆頭。元禄十六年頃は丈右衛門と名のり、徒頭。宝永頃退任。

大石郷右衛門

滋賀大津出身。元禄八年（一六九五）、新知二〇〇石、八人扶持。

大石内蔵助良雄の従兄弟。江戸足軽頭・用人を勤めた。

藤岡三左衛門

四代藩主津軽信政に仕え、家禄一〇〇石、四人扶持。

佐々木小大膳

小太膳。七人扶持、御小姓組。新知一五〇石。

桜庭太郎左衛門

半兵衛。享保十二年（一七二七）、五代藩主津軽信寿の馬廻組頭となり、その後「津軽一統志」の編纂にも関わる。元文元年（一七三六）に秋田へ出張の折り、道法図解を作成。

〔青森県人名事典〕より摘記

とある。絵図改めの実務者として、この「目録」作成に関わった人たちであろう。天和・貞享・元禄・宝永と続く三〇年間は、弘前藩中興の英主と讃えられる四代藩主津軽信政の治世下で人材が広く登用され、学問

や産業・技術が藩外から積極的に移植された時期に当たる。正保国絵図の忠実な写しである貞享二年「陸奥国津軽郡之絵図」や、弘前城と近郊農村の位置関係を克明に描いた同年「弘前并近郷之御絵図」など、優れた大型絵図がこの時期に作成されており、藩内で絵図への関心が大いに高まっていたと考えられる。

「目録」からはさらに、国元と江戸とで絵図を頻繁にやりとりしていた様子が浮かび上がる。末尾近くの貼紙には「丸印之分ハ、未ノ年江戸へ為御持被遊候分敷、三月十一日改甘通上ルト外ノ書付ニ有之候、此事敷」とあり（別表No.一六六を参照のこと）、「目録」中には十七個の「〇」印が散見する（不足の三個は欠丁部分にあつたのではなからうか）。興味深いことには、元禄図の徴収を発令した幕府老中土屋政直（相模守）や、当時幕閣にあつて枢要な地位を占めた柳沢吉保（出羽守）の名も見えている（No.七七、七〇）。

次に、この「目録」を手がかりにして、幾つかの絵図に関する知見を記しておきたい。

#### No.六四 津軽郡之絵図

「目録」では「私領絵図」の項に区分され、「貞享二乙丑年三月廿六日、一箱」と記されている。徳川幕府は数度にわたつて国絵図を徴収したが、弘前藩関係の現存国絵図としては、青森県立郷土館所蔵の正保図（写本）、内閣文庫所蔵の天保図（正本）がある。このうち、県立郷土館所蔵図は「陸奥国津軽郡之絵図」の表題を持ち、絵図裏に「正保二乙丑年十二月廿八日差上御公儀候控之写也、貞享二乙丑年三月廿六日」の書き入れがある。保存状態は良好で、当初のものと思わ

れる木箱に納められている。これがNo.六四に相当すると考えてよい。

弘前市立図書館には「慶安の御郡中絵図」と通称される同系統の絵図があり、法量(サイズ)を除いて、内容や描法は県立郷土館所蔵図とよく似ている。こちらはNo.六六に比定することができよう。これまで両者の関係はよく分かっていたが、「目録」の記事により、元禄十六年以前から一カ所で管理されていたことが明らかになった。

#### No.一六 今別・黒崎・三馬屋之絵図并本陣之図

「目録」では「領分中古村之絵図」の項に区分されている。弘前市立図書館には「今別町御絵図」「黒崎町之御絵図」「三馬屋町御絵図」「三鋪」と、「御本陣之図」(蟹田・平館・今別・三馬屋)四枚の絵図が、セットで残されている(弘前市立図書館蔵津軽家文書、TK二九〇・三一三三)。このうち「三馬屋町御絵図」には村内に居住するアイヌ「かふたかいん」の家屋敷が描かれている。「津軽史」「津軽絵図並境論」貞享元年七月十六日条に「今別町屋之図八幡社迄可申付候、北ハ黒崎迄之図可申付旨、九兵衛ニ申渡」とあるが、「目録」との照合により、この記事の正しさが明らかになったと言えよう。

#### No.一七 一 二 一

十三絵図、深浦之御絵図、鯉ヶ沢之御絵図、青森御絵図、別紙御絵

#### 図(大間越・鯉ヶ沢・深浦・青森・碓ヶ関)

「津軽史」「津軽絵図並境論」天和三癸亥年正月十三日条に、鯉ヶ沢絵図前々雖有之悪敷候ニ付、今度伝左衛門ニ被仰付、御大工小頭・斎藤孫左衛門ニ申付、則絵師上村半兵衛も遣、一部二間絵図出来御前え差上候処、入御意如是、深浦・大間越・小泊・青盛・大

浜・十三・浅虫も可仕之由仰出之、

とあり、鯉ヶ沢絵図の改訂図を見た藩主津軽信政が、絵図の出来栄に感心し、他の絵図も作成しよう命じたという。「弘前藩庁日記」(御国日記)にこの記事はなく、これまで年記・内容の裏付けが取れなかったが、「目録」との照合により、これら一連の絵図が天和三年の制作であると確認できることになった。

#### No.一三〇 弘前并近郷之御絵図

青森県立郷土館が平成一〇年度に購入し、特別展『描かれた青森』で初めて公開した同名の大型絵図が、これに相当すると思われる。絵図表の貼込みに「貞享二年三月」の年記が見える。中央の縄張部に「御」の字を配して弘前城を示し、周辺の村・家並み・街道筋・山野・河川を描いている。城の西側に見える樋ノ口川の留切堤の跡(二筋に分かれる岩木川の一方の流れを引き込んで堀に代用した際のもの)や、石川城・青柳城など多くの中世城館跡が立体的に描かれている。植生・交通・土地利用・建造物などの地理情報を整理するために作成されたものであろうか。弘前を中心とした半径約六キロの範囲を描き、東は松崎村、西は兼平天神、南は大和沢村、北は三世寺村を境とする。この絵図の発見により、「弘前藩庁日記」(御国日記)などにしばしば登場する「弘前廻り」「弘前近郷」の範囲を視覚的に規定することができるようになった点、高く評価されるべき資料である。後世の写本である可能性はなおも残るが、「目録」での掲載が確認されたことにより公的絵図として作成されたものであることは疑いなく、絵図の内容そのものへの信頼性は、大いに高まったと言えよう。

No. 131 從三角山御茶屋場山崎迄峯筋見分之図

黒石津輕氏の飛地である平内領浅虫（現青森市）から、南部領に向かう山並みを描く。このあたりは津輕領と南部領の境でもあり、中世以来の複雑な入会関係が存在したため、境争論が頻発した。絵図では、弘前藩領を「御当領」、黒石津輕氏領は「平内御領」と区別してある。縮尺・里程・測量協力者名などを二枚の付札（浅黄色と黄色）にして絵図表に貼込んであり、そこには元禄四年（一六九二）の年記と、制作責任者である金沢勘右衛門の名が見えている。勘右衛門はもと加賀の人で、天和二年（一六八二）に江戸で津輕信政に召し抱えられ、貞享初年に弘前へ下って測量・絵図制作に携った（『津輕藩旧記伝類』）。関連史料として、貞享四年「御領分御絵図目録同合紋」（弘前市立図書館蔵津輕家文書、TK二九一―二）などを参照されたい。

筆者がこの「目録」の複写資料を入手したのは、平成十二年十一月初頭のことであり、この史料紹介をするにあたって、「弘前藩庁日記」（御国日記及び国日記）など藩政記録にあたる十分な余裕が持てなかった。ゆえに本稿では翻刻文と一覧表を付して利用の便を図ることのみを念頭に置き、踏み込んだ考察を行わなかったことを、予めお断りしておく。

（表紙）

元禄十六癸未年三月七日改之	石田丈右衛門
	大石郷右衛門
御絵図目録 六ノ印	藤岡三左衛門
宝永七庚寅年十月廿八日	大石郷右衛門
	佐々木小大膳
	桜庭太郎左衛門

国絵図目録

- 日本之図、  
一、朱之写、  
一、胡粉之写、  
一、大日本国地之図、  
一、日本図、  
一、日本図、内一枚御樓中ノ絵図、  
一、同図、本帳二八船路絵図之内ニ海上絵図ト有  
一、備前国絵図、
- 一枚、  
一枚、  
一枚、  
一枚、  
一枚、  
二枚、  
一包二枚、  
二枚、

- 一、但馬国之図、一枚
- 一、播磨国之図、一枚
- 一、長門国之図、一枚
- 一、周防国之図、一枚
- 一、美作国之図、一枚
- 一、撰津、河内、兩國之図、一枚

(二)六丁は欠

- 一、越後城下図、高田、一枚
- 一、水口城并城下図、一枚

未ノ正月九日上ケ置本帳ニ此段不記之、

○一、本所深川図并道積書付、

本帳ニ無御座候、

- 一、江戸分間大絵図、元禄十四版行、一袋

同断、

- 一、御屋敷御絵図、只今迄御差図方ニ有、元禄十六未三月七日、一枚一袋

田浦四郎右衛門・唐牛頼母より受取之、

- 一、本所之絵図、一袋

所々之城図

- 一、江城之図、一枚
- 一、撰州大坂御城之図、内一枚ハ町割共ニ、一枚

- 一、千早、一枚
- 一、嶽山、一枚
- 一、赤坂、一枚

- 一、金剛山、一枚
  - 一、千劍、一枚
  - 一、赤坂、一枚
- 右三枚一袋、

- 一、松前之城図、但一枚ハ間敷共ニ、二枚
- 一、館林御城之図、三枚

- 一、播州姫路之城図、二枚

- 一、嶋原之城図、一枚

- 一、陸奥南部之城図、内一枚ハ奥州盛岡ノ城図と有り、二枚

- 一、信州飯山之城図、一枚

- 一、信州諏訪高嶋城図、一枚

- 一、三州岡崎城図、一枚

- 一、越後高田城図、二枚

- 一、三州西尾城之図、一枚

- 一、淀城之図、一枚

- 一、尾州名護屋城図、一枚

- 一、越前福井城図、一枚

- 一、信州松本城図、一枚、
- 一、越後長岡之城図、一枚、
- 一、甲州城図、一枚、

八

- 一、越後春日山城図、二枚、
- 一、越中富山城図、一枚、
- 一、奥州会津若松之城図、一枚、
- 一、同棚倉之城図、一枚、
- 一、上州厩橋之城図、一枚、
- 一、奥州岩沼之城図、一枚、
- 一、出羽上之山之城図、一枚、
- 一、下総関宿之城図、一枚、

十

- 一、大坂御城之図、一枚、
- 一、江州彦根之城図、一枚、
- 一、和州郡山之城図、一枚、
- 一、常陸国水戸之城図、一枚、
- 一、阿波国徳嶋之城図、一枚、
- 一、安土城図、一枚袋二入、
- 一、水口城之図、一枚、

前田助右衛門方より  
御写させ被成候

- 一、仙台之城図、一枚、

九

- 一、下野壬生城并町中図、一枚、
- 一、奥州二本松之城図、一枚、
- 一、信州小諸城之図、一枚、
- 一、白石之城図、一枚、
- 一、城築規範、元禄十四巳五月七日被遊御預候、一袋、

国絵図包ノ内二入、

異国絵図、元禄二ハ此規定無之候へ共御自筆ニて御下ニ是有候故今度定之、

- 一、朝鮮国地図、一枚、

私領絵図

- 一、津輕郡之絵図、貞享二乙丑三月廿六日、一箱、
- 一、御領分御絵図入、下書、一箱、

但疑前有、御鑑ハ  
元絵図差図之御長  
持之鑑ト一包ニ有、

- 一、御郡中絵図入、一袋、

○一、陸奥国津輕郡之図、外ニ元禄ニ津輕郡之図一袋ト有之  
候へ共、此一包より外ニハ無之候、

- 一、一袋、

- 一、御領分御絵図、元禄巳巳五月七日、一袋、

弘前城惣絵図

○一、弘前御城御絵図、

一袋、

貞享元年甲子年十一月六日卜臈付有、

一、弘前御本城之図、元禄七戊午五月十日、柳沢出羽守様へ被遊御持参候御扣、

一包、

一、奥州津軽郡弘前城図、戸田山城守殿より参候奥書之御案紙一枚、

一包、

元帳三八御城下之図と有之、

○一、御用之物、将監業中御書付有之、

一包、

○一、弘前御城之図、

一枚、

○一、御城之図、

一枚、

一、御本丸・二・三・四ノ御郭御絵図、二分一間積、田舎間と有、

一袋、

十一

一、奥州津軽郡弘前城図、

一箱、

此箱二、元禄七戊午五月十一日、戸田山城守様御差図にて、御用番土屋相模様へ相聞新右衛門持参之御扣卜張札有、

○一、弘前御城図、

二枚、

一、津軽弘前城絵図、

一袋、

○一、弘前御本城之図、延宝三甲寅十一月四日、二分一間六尺間、

一袋一枚、

一、御図、但二枚共三御本城之図、

一枚一包、

一、弘前御本城之図、右二通本帳三無御座候、

三枚一封、

○一、津軽郡弘前城之図、御公儀江上ル扣、

一枚一包、

本帳三八弘前城中所々絵図之内二有リ、

○一、弘前御城屋敷割之図、

一袋一通、

本帳三八弘前惣絵図之内二有リ、

十二

○一、御本丸・二・三・四ノ御郭之図、一分一間積リ、一袋、★

★貼紙 帳之外左之通有之、

内二半分ノ御図一枚、 此付紙本帳二ハ不仕候、不分明故

古絵図書、

小書付入目録内二有、

弘前中所々絵図包ノ内、

弘前中侍屋敷之絵図

一、四人之屋敷絵図、棟方十左衛門・山中六左衛門・村山七左衛門・新屋縫殿丞、

一包、

一、棟方十左衛門屋敷図、

一包、

一、森岡主膳・北村源八・木村奎之助屋敷図、

一包、

一、北村源八家之図・屋敷地形之図、

二包一括、

弘前中所々絵図包ノ内、

弘前惣絵図

- 一、弘前御城下町割・屋敷割、
- 外ニ弘前惣御絵図割ト有之、一箱ト元帳ニハ有之候へ共無之候、

一枚、

弘前中所々絵図包ノ内、

弘前中寺社之絵図

- 一、神明宮御絵図、
- 一、長勝寺・耕春院惣構之図、
- 右ニヶ条本帳ニ、弘前惣絵図之内ニ有之、

一封三袋と有、

一袋、

一枚、

一枚、

- 一、報恩寺之絵図、

弘前中所々絵図包ノ内、

弘前中町屋之絵図

- 一、親方町焼屋敷之絵図、
- 元帳ニハ、一封ハ火事場之絵図と書付有之、領分中所々ノ絵図ノ所ニ有之、

二封、

十四

領分中惣絵図包ノ内、

領分中所々之絵図

- 一、青森図、本帳ニハ御図ト計有、
- 一、れいし之御絵図、外ニ書付一、
- 一、献上蕨取場之絵図、

一枚、

二枚、

一枚、

元帳ニ枚と有之候へ  
共一枚なくて無之候、

一、御絵図、

内、

- 一包ニハ四通有、森山城御普請之絵図、大間越御本陣之絵図、
- 深浦新道之図、大間越白銀山新道之図、

二包、

一包ニハ大間越道之図、

一、唐内坂北之森御絵図、

一袋、

領分中惣絵図包ノ内、

領分中白銀山境之絵図

- 一、絵図、

一袋三枚、

内、

御御山延宝四辰年四月廿七日見分之図、

從津輕碓関口南部城下迄之絵図、

小山縫殿丞方より之絵図写三通、

一、御金山書付絵図

一封、

一、碓関山境之絵図二枚、書付一通、

一袋、

領分中惣絵図包ノ内、

領分中金山之絵図

- 一、尾太御町屋敷御絵図、延宝五年三月十八日、唐牛与右衛門、一枚、
- 一、御金山寒沢御絵図、
- 寒沢之内、
- 一、銀銅山御絵図、延宝四辰年九月十日、唐牛与右衛門、一枚、
- 一、御金山町割御絵図、

一包、

一枚、

一、御金山御絵図、 一枚、

一、尾太御山御絵図、 一袋一枚、

一、尾太御山之御絵図入、 一包、

延宝四辰年、

一、御銀山所々御入用之惣差図、 一通、

御差図下有之候得共、御銀山之類故此絵図之内へ入置、本帳ニハ無之、

領分中惣絵図包ノ内、

領分中新田場所之絵図

一、銅屋森より水道堀貫新田場之絵図、 一枚書物二通

一、広須御新田所之図入、天和三亥年閏五月十五日、 一包、

一、広須御派懸堰岩木川より普請仕候堰筋見分ノ絵図、一枚、

一、須藤惣右衛門・岡文右衛門名付有之御絵図、 二枚、

一枚ハ御所川原御派所成就ト書付有、一枚ハ所不知、

一、金木新田之図、元禄十一年六月十五日、本帳ニ無之、 一袋、

領分中惣絵図包ノ内、

領分中古村之絵図

一、今別・黒崎・三馬屋之御絵図并御本陣家之図、 一袋、

一、十三絵図、 一包、

一、深浦之御絵図、天和三亥十一月十五日、一分二間ノ割、 一袋、

一、鱒ヶ沢之御絵図、式分一間、同年正月十三日、 一袋、

一、青森御絵図、一分二間ノ割、同年十一月十五日、 一袋、

一、別紙御絵図、大間越・鱒ヶ沢・深浦・青森・碓関、 一袋五枚、

五ヶ所、

領分中惣絵図包ノ内、

領分中惣絵図

一、亀ヶ岡領新道図、 一袋、

一、同御屋敷構之図、 一袋、

一、同新町地割、 一通但一包、

一、長勝寺石森之絵図、 一包、

一、碓関瀧之絵図、 二枚、

一、かりは沢之絵図、 一封、

一、木作御絵図、 一包、

一、海辺筋絵図二枚、從碓関峠古懸山入口迄、 一袋、

一、弘前并近郷之御絵図、

一、三角山御茶屋場より山崎迄峰筋見分ノ図、 一袋、

亀ヶ岡古城、

一、御図、天和三年亥四月初日、 一袋、

一、あ者ら山之図、 一袋、

石郷岡八九郎

一、黒石御絵図、元禄四年三月十一日、 二袋、

此二枚ハ包物之内へ不入、

一、御国中道程之図并帳目録、

但箱ノ宛所江戸御用人・御国御用人より、

一、平内領絵図、二通ノ内一通ハ、元禄十一年正月

廿六日、津軽采女様へ被進候、

一箱、

〇一、御国上野御絵図、一袋ハ元禄十三年八月十一日卜有、

一袋ハ御本紙卜有、

二袋、

右五通ハ本帳ニ無之、

廿

御絵図包ノ内、

陸路絵図

一、從南部城下所々江之道筋図、

一枚、

一、從江戸奥州津軽迄道筋図、

一袋、

一、東海道御屏風下絵、

一袋、

是計一包、

下書絵図之分

一、道程、

一包、

一、野帳、

一袋、

一、御領分御絵図、元禄二年五月七日、下画、

一袋、

一、弘前外近郷之御絵図、下画、

一袋、

一、御郭御絵図、下画、

一袋、

御本丸・二・三之郭、

一、御絵図、御用ニ不立と御書付有之、

一袋、

在四枚、

御絵図包ノ内、

嶋絵図

一、松前之絵図、

一枚二包、

一、蝦夷之図、

五枚、

一、狄図、

一枚、

古戰場包ノ内、

古戰場之絵図

一、関ヶ原御陣之図、

二枚、

一、信州川中嶋合戦図、

一卷、

一、同川中嶋之図、

一枚、

信州川中嶋合戦之図、

一枚、

一、上州厩橋合戦之図、

一卷、

信州海野平合戦之図、

一卷、

信州猿ヶ馬場合戦之図、

一枚、

一、大坂御合戦之図、

一枚、

一、国府台合戦之図、

二枚、

右同包ノ内、

古戦城攻之絵図

一、黒舟長崎へ入津諸大名被相詰候絵図、

一枚、

一、肥前国原城攻絵図、

一枚、

一、摂州大坂御城、御普請諸大名御手伝場所、

一枚、

一、大坂城攻図、

一枚、

御絵図包ノ内、

舟路絵図

一、初国舟路図式、

二枚

一、初国舟路絵図、

二枚

一袋、

古戦場包ノ内、

陣取之絵図

一、人数六千余陣屋割図、

二枚

一括、

一、山熊組七百三十騎相陣取之図、

一袋、

○一、御屋敷地割、

三袋、

左三同し、

元帳二八五袋下候へ共、二袋ハ御  
差図故、午三月十一日四郎右衛門  
へ渡ス、

内、

一袋ハ貞享五辰九月十九日出来候本絵図・御書付入、六尺間四分

一間、

一袋ハ元禄元辰十月日出来、六尺間四分一間、

一袋ハ同年十一月出来、六尺間六分一間、書付入、

○一、本庄御屋敷之図、但御仮屋之図有、

一 包書付一通入、

○一、同新御屋敷之御門明之図、同断、

一袋亀岡久三郎、

★貼紙

丸点之分ハ、未ノ年江戸へ為御持被遊候分敷、  
三月十一日改廿通上ルト外ノ書付ニ有之候、此事敷

江戸所々屋敷之絵図

一、柳原御屋敷御近所之絵図、

元帳二八下屋敷御近所之御絵図下有、

二枚、

一、神田御屋敷御近所之御絵図、

元帳二八上屋敷御近所之御絵図下有、

一枚、

一、新御屋敷辻番之図、

此新下御座候ハ何レニテ御座候哉不知、

一枚一包、

一、御浜屋敷御用地之残絵図并間敷・坪数、

元帳二八差下有、

一袋、

一、江戸柳原御屋敷并御仮家之図、

只今迄御差図之方ニ有、本帳二八御下屋敷御差図下有、

一枚、

一、神田御屋敷地割、

同断、

一袋、

一、同新御屋敷之図、

同断、但御差図方本帳二八御上屋敷絵図下有、

一枚、

○一、新御屋敷分間之図、

元帳ニ無之候、只今迄御差図方ニ有之候、今度受取之、

一袋、

(1) 「元禄国絵図に関する新資料について—弘前藩の場合」(『弘前大学国史研究』第二号、一九五六年)。「享保日本図作製に関する新史料について—弘前藩の場合」(『歴史』第十四輯、一九五七年)。「津軽沿岸地方の上知問題と国絵図改正」(『弘前大学国史研究』第七号、同年)。他に関連するものとして「享保日本図作製に関する新史料について—盛岡藩の場合」(『科学史研究』第五一号、一九五九年)。

(2) 国絵図・日本総図についての記述は、主として川村博忠氏『江戸幕府撰国絵図の研究』(古今書院、一九八四年)・『国絵図』(日本歴史叢書四四、吉川弘文館、一九九〇年)、杉本史子氏『領域支配の展開と近世』(山川出版社、一九九九年)に拠ったが、これらについては、本稿中でいちいち出典を明記しなかった。

(3) 津軽領の元禄図は発見されていないが、関係資料である変地帳(正保度以降の変更点の書上)や縁絵図(他領との境界線を策定するための資料絵図)は現存する。弘前市立図書館蔵「陸奥国津軽領変地其外改之候目録」(補題「元禄十四辛巳年四月之扣国絵図御改二付書上帳」)、国文学研究資料館史料館蔵津軽家文書中の関係絵図類など。なお、前者については、ここに紹介しておく。

(表紙)

元禄十四辛巳年四月之扣  
 国絵図御改二付書上帳  
 陸奥国津軽領変地其外改之候目録

陸奥国津軽領 一郡

一、奥州五拾余郡之内津軽郡一円致領知候得共、

平賀ヒラカ

古来より 田舎イナカ 三郡御絵図郷帳ニも書記候ニ付右之通相認奉伺候処、

鼻和ハナワ

奥州之内右三郡無之郡故、此度者一郡ニ相認可申旨被仰付、其通仕

立申候事、

新郷帳

一、高都合拾万三千九拾七石老斗五升、村数三百三拾六ヶ村、

古郷帳

一、高都合拾万式千四百六拾八石八斗、村数三百三拾六ヶ村、

一、東西道程三拾四里式拾六町余、

東之方南部領ナカノカワ境川より西之方海端ウミノヘ鱈ヶ沢村迄、往還之道筋、

一、南北道程式拾九里式拾老町、

南之方出羽国境峠より北之方海端コトノヘ小泊村迄、往還之道筋、

一、往還之道老里塚、古御絵図二者四拾八町六寸老里ニ相認申候所、

今度三拾六町六寸老里之積ニ而可仕由御差図ニ付、相改之新御絵図、

三拾六町六寸老里ニ仕立候事、

一、高都合拾万式千四百六拾八石八斗八升之内老万五千四百六拾石余、

本村之開發地ニ而御座候所、右御絵図村形ニハ新田と記之、古御郷

帳二者新田と斗書出之、石高不足仕候間、今度相改、新御絵図之村

形并新御郷帳ニも、石高増之と書載候村々も御座候事、

一、国境郡境之山々古御絵図と違候処御座候、互境目申請、新御絵図

仕立候事、

一、津輕越中守最初之知行高四万七千石之内、陸奥国津輕郡二而四万五千石、上野国新田領二而弍千石御領仕候処、奥州二而高三千石、上州二而高弍千石、都合五千石、明曆二年津輕十郎左衛門分知仕候、十郎左衛門并嫡子左京病死仕、左京嫡子妾女二四千石、次男伊織二千石分知仕候、此千石之内五百石ハ奥州、五百石ハ上州二而分知仕候、其後伊織病死仕、右千石之領知公儀江差上申候処、奥州之内五百石物成上納之義者越中守方分取立、奥州御代官<sup>江</sup>相渡可申旨被仰付、其通二御上納致候、津輕妾女<sup>江</sup>分知之上州之知行千五百石、元禄十一戊寅年被召上、為御替地奥州之内右伊織上知五百石之所ヲ千百弍拾八石三斗五升之石高二而被下之候二付、古郷帳より六百弍拾八三斗五升石高増申候事、

古者<sup>ヌキ</sup>杉村

小屋<sup>コヤシキ</sup>鋪村

右相改、今度新御絵図ニ書載候事、

古御絵図之獵<sup>シカ</sup>船

漁<sup>イサ</sup>船

右之文字誤之候付、相改申候、

一、右之外変地其外別条無御座候、

右相改候通今度無相違認申候、以上、

元禄十四辛巳十一月 津輕越中守内

勝本藤左衛門 印

樋口理左衛門 印

付記

脱稿後、この「目録」が、弘前市立博物館に収蔵されることとなつたという情報を得た。原本が弘前市において見られるようになったことは喜ばしく、今後の活用を大いに期待するものである。

(ほんだ・しん 青森県史編さん室総括主査)

	区 分	合点	表 題	所藏先・請求記号	年代	西曆	法量(cm)
1	日本之図		朱之写				
2	同		胡粉之写				
3			大日本国地之図				
4			日本図				
5			日本図				
6			同図				
7			備前国絵図				
8			但馬国之図				
9			播磨国之図				
10			長門国之図				
11			周防国之図				
12			美作国之図				
13			摂津・河内両国之図				
14	(城下図)		越後城下図				
15			水口城并城下図				
16		○	本所深川図并道積書付				
17			江戸分間大絵図				
18			御屋敷御絵図				
19			本所之絵図				
20	所々之城図		江城之図				
21			摂州大坂御城之図				
22			千早・巖山・赤坂				
23			金剛山				
24			千劔				
25			赤坂				
26			松前之城図				
27			館林御城之図				
28			播州姫路之城図				
29			嶋原之城図				
30			陸奥南部之城図				
31			信州飯山之城図				
32			信州諏訪高嶋城図				
33			三州岡崎城図				
34			越後高田城図				
35			三州西尾城之図				
36			淀城之図				
37			尾州名護屋城図				
38			越前福井城図				
39			信州松本城図				
40			越後長岡之城図				
41			甲州城図				
42			越後春日山城図				
43			越中富山城図				
44			奥州会津若松之城図				
45			同棚倉之城図				
46			上州厩橋之城図				
47			奥州岩沼之城図				
48			出羽上之山之城図				
49			下総関宿之城図				

	区 分	合点	表 題	所蔵先・請求記号	年代	西暦	法量 (cm)
50			大坂御城之図				
51			江州彦根之城図				
52			和州郡山之城図				
53			常陸国水戸之城図				
54			阿波国徳嶋之城図				
55			安土城図				
56			水口城之図				
57			仙台之城図				
58			下野壬生城并町中図				
59			奥州二本松之城図				
60			信州小諸城之図				
61			白石之城図				
62			城築規範				
63	異国絵図 (国絵図包ノ内 二入)		朝鮮国地図				
64	私領絵図		津軽郡之絵図	青森県立郷土館	貞享2	1685	393×488
65			御領分御絵図入				
66		○	御郡中絵図入	TK290. 3-3			360×433
67		○	陸奥国津軽郡之図				
68			御領分御絵図				
69	弘前城惣絵図	○	弘前御城御絵図				
70			弘前御本城之図				
71			奥州津軽郡弘前城図				
72		○	御用之物				
73		○	弘前御城之図	M8			144×175
74		○	御城之図				
75			御本丸・二・三・四ノ御郭御絵 図	M6	延宝4	1706	356×272
76		○	御本丸・二・三・四ノ御郭之図	M7			143×169
77			奥州津軽郡弘前城図				
78		○	弘前御城図				
79			津軽弘前城絵図				
80		○	弘前城絵図				
81			御図				
82			弘前御本城之図				
83		○	津軽郡弘前城之図				
84		○	弘前御城屋敷割之図	TK203-5			181×124
85	弘前中侍屋敷之絵図 (弘 前中所々絵図包ノ内)		四人之屋敷絵図	TK203-41、42、 43、44			
86			棟方十左衛門屋敷図	TK203-40			
87			森岡主膳・北村源八・木村奎之 助屋敷図	TK203-39			
88			北村源八家之図・屋敷地形之図	TK203-38 (TK527 -4、5、6)			
89	弘前惣絵図 (弘前中所々 絵図包ノ内)		弘前御城下町割・屋敷割				
90	弘前中寺社之絵図 (弘前 中所々絵図包ノ内)		神明宮御絵図	M1カ			337×135
91			長勝寺・耕春院惣構之図	TK185-29			91×91、 49×132
92			長勝寺之絵図				
93			報恩寺之絵図	TK185-30			56×39

区 分	合点	表 題	所蔵先・請求記号	年代	西暦	法量 (cm)
94	弘前中町屋之絵図 (弘前中 中所々絵図包ノ内)	親方町焼屋敷之絵図	TK203-30、31、32			
95	領分中所々之絵図 (領分 中惣絵図包ノ内)	青森図				
96		れいし之御絵図	TK474-1、2、3			
97		献上蕨取場之絵図	TK203-36			119×61
98		御絵図				
99		唐内坂北之森御絵図	TK290.3-24			145×190
100	領分中白銀山境之絵図 (領分中惣絵図包ノ内)	絵図	② TK290.3-54 ③ TK290.3-49	延宝4	1706	
101		御金山書付絵図				
102		碓関山境之絵図				
103	領分中金山之絵図 (領分 中惣絵図包ノ内)	尾太御町屋敷御絵図	TK569-11	延宝5	1707	64×97
104		御金山寒沢御絵図				
105		銀銅山御絵図	M74	延宝4	1706	152×168
106		御金山町割御絵図				
107		御金山御絵図				
108		尾太御山御絵図	M75			
109		尾太御山之御絵図入				
110		御銀山所々御入用之惣差図	TK569-10	延宝4	1706	40×45
111	領分中新田場所之絵図 (領分中惣絵図包ノ内)	銅屋森より水道堀貫新田場之絵 図				
112		広須御新田所之図入	M49			257×166
113		広須御派懸堰岩木川より普請仕 候堰筋見分ノ絵図	M47か M48			
114		須藤惣右衛門・岡文右衛門名付 有之御絵図				
115		金木新田之図				
116	領分中古村之絵図 (領分 中惣絵図包ノ内)	今別・黒崎・三馬屋之絵図并御 本陣家之図	TK290.3-33			
117		十三絵図	TK290.3-34			53×59
118		深浦之御絵図	TK290.3-35			28×81
119		鱒ヶ沢之御絵図				
120		青森御絵図	TK290.3-30			74×130
121		別紙御絵図				
122	領分中惣絵図 (領分中惣 絵図包ノ内)	亀ヶ岡領新道図	M45			378×212
123		同御屋敷構之図	M45			
124		同新町地割	M45			
125		長勝寺石森之絵図	TK290.3-23			
126		碓関瀧之絵図	TK290.3-32			43×40
127		かりは沢之絵図	TK290.3-44			
128		木作御絵図	TK290.3-15か			
129		海辺筋絵図二枚	TK290.3-31			24×34
130		弘前并近郷之御絵図	青森県立郷土館	貞享2	1685	386×365
131		三角山御茶屋場より山崎迄峰筋 見分ノ図	M57	元禄4	1691	188×292
132		御図	M15か			
133		あじゃら山之図	Tk290.3-39か			
134		黒石御絵図	TK290.3-40			76×154
135		御国中道程之図并帳目録				

	区 分	合点	表 題	所蔵先・請求記号	年代	西暦	法量 (cm)
136			平内領絵図				
137		○	御国上野御絵図				
138	陸路絵図(御絵図包ノ内)		従南部城下所々江之道筋図				
139			従江戸奥州津軽迄道筋図				
140			東海道御屏風下絵				
141	下書絵図之分		道程	国史津 2241			
142			野帳	国史津 1693			
143			御領分御絵図				
144			弘前外近郷之御絵図				
145			御郭御絵図				
146			御絵図				
147	嶋絵図(御絵図包ノ内)		松前之絵図				
148			蝦夷之図				
149			狄図				
150	古戦場之絵図(古戦場包ノ内)		関ヶ原御陣之図	国史津 2173			144×72
151			信州川中嶋合戦図	国史津 2175			
152			同川中嶋之図				
153			信州川中嶋合戦之図・上州厩橋合戦之図・信州海野平台合戦之図・信州猿ヶ馬場合戦之図				
154			大坂御合戦之図	国史津 2170			253×186
155			国府台合戦之図	国史津 2172			168×116
156	古戦城攻之絵図(右同包ノ内)		黒舟長崎へ入津諸大名被相詰候絵図				
157			肥前国原城攻絵図				
158			摂州大坂御城	国史津 2171			252×188
159			大坂城攻図	国史津 2169			110×90
160	舟路絵図(御絵図包ノ内)		初国舟路図式				
161			初国舟路絵図				
162	陣取之絵図(古戦場包ノ内)		人数六千余陣屋割図	国史津 2176			80×84
163			山熊組七百三十騎相陣取之図	国史津 2177			220×132
164			御屋敷地割	国史津 2222、2223			98×186、 140×276
165		○	本庄御屋敷之図				
166		○	同新御屋敷之御門明之図				
167	江戸所々屋敷之絵図		柳原御屋敷御近所之絵図	国史津 2262			
168			神田御屋敷御近所之御絵図	国史津 2267			
169			新御屋敷辻番之図	国史津 2247			
170			御浜屋敷御用地之残絵図并間敷・坪敷	国史津 2268か			
171			江戸柳原御屋敷并御仮家之図	国史津 2301			
172			神田御屋敷地割	国史津 2226			
173			同新御屋敷之図	国史津 2227			
174		○	新御屋敷分間之図	国史津 2276			

「TK」および「M」=弘前市立図書館蔵津軽家文書  
「国史津」=国文学研究資料館史料館蔵津軽家文書